

2024
年度

かぎん文化財団賞

かぎん文化財団

公益財団法人かぎん文化財団は、地域文化の発展向上および地域の活性化に寄与することを目的に平成9年3月に設立されました。毎年事業の一つとして、鹿児島県の芸術・文化スポーツ等の発展向上に顕著な貢献が認められる個人および団体を表彰する「かぎん文化財団賞」を設けております。2024年度は次の5名の方に本賞をお贈り致しました。また本年度助成先および過去の受賞者・助成先については、鹿児島銀行ホームページをご参照ください。（お問合わせ 公益財団法人かぎん文化財団事務局 TEL099-239-9766）

音楽／ユーフォニアム

たけむら ゆかり
竹村 由加里さん

鹿児島市ご出身。鹿児島県立松陽高等学校音楽科で卒業後、くらしき作陽大学音楽学部音楽学科を4年間特待生として卒業された。現在、鹿児島国際大学国際文化学部音楽科、鹿児島県立松陽高等学校非常勤講師をされている。金管楽器の中で最も歴史の新しい楽器であるユーフォニアム奏者で鹿児島を拠点に離島や県内外でも音楽活動を精力的に実施されている。学生時代より県内外の各賞や優秀指導者賞などの受賞歴が多数あり、その豊かな表現力と確かな技巧、指導力は高い評価を得ておられる。演奏活動として、リサイタルや吹奏楽ソリスト、吹奏楽客演、アンサンブルなどのほか、県内各地の小中高等学校での鑑賞教室や慰問演奏を継続され、地域音楽文化振興に寄与されている。また音楽コンクール審査員、演奏団体「Reflexions」主宰を務め後進の指導・育成にも尽力されており、今後のご活躍が大いに期待される。



表彰先
案内

美術／絵画・絵本

しおみつ さちか
塩満 幸香さん

始良市ご出身。鹿児島県立松陽高等学校ご卒業後、筑波大学へ進学され、学生時代から絵本を制作、油絵を専門的に学びながら絵本制作に精力的に取り組まれた。大学3年生のとき絵本コンクールで優秀賞を受賞されたことを機に、小学館が発行する幼児雑誌などで挿絵を担当し経験と実績を積まれた。大学院ご卒業後鹿児島に帰郷され、現在鹿児島情報高等学校の美術講師などを勤めながら、絵本作家、画家として活躍されている。2022年末には新人絵本作家の登竜門「第11回MOE創作絵本グランプリ」を受賞され（応募総数721点）2023年に初の絵本『ベニーのみずたまぼうし』（白泉社）を出版された。個展活動にも力を入れ、絵本制作と絵本の普及に取り組んでおられる。今後のご活躍が大いに期待される。



音楽／地元民謡 エッセイスト

おがた うらら
緒方 麗さん

屋久島安房ご出身。地元で古い民謡を歌いつく歌手活動をされている。鹿児島純心中高等学校をご卒業後、東京の短大へ進学され、音楽事務所勤務を経て帰島された。2016年開催の国民文化祭を機に行われた島内イベントで、屋久島の古い民謡「まつばんだ」をはじめて披露され、その後歌い継ぐ活動を続けられている。「まつばんだ」は幻の民謡と言われて、音程の高低差が激しく、その難しさから50年歌われることのなかった屋久島の古い民謡。50年前のテープしか残っておらず、試行錯誤しながら歌い継がれている。現在家業の飲食店を継がれ、執筆活動をしなが、屋久島の自然のなかで、屋久杉のウクレレと屋久杉のギターとのデュオで演奏活動を続けておられる。2023年11月25日 屋久島自然遺産登録30周年記念シンポジウムで総司会を務められ、歌唱を披露された。今後のご活躍が大いに期待される。



文化活動／鹿児島弁劇の演出・作家

うと だいさく
宇都 大作さん

鹿児島市ご出身。九州東海大学（熊本）在学中より演劇プロデュース企画に参加。2006年鹿児島に戻り、劇団上町クロズラインを設立された。鹿児島弁を次世代に繋ぐため、演劇のなかに方言を取り入れた作品を制作・上演する活動を続けておられる。その後、演劇活動の中で、劇中で楽しい鹿児島弁講座を取り入れたり、鹿児島を舞台にした数々の作品で鹿児島弁の台詞を取り入れ、またかごんま弁劇団からの依頼でDVD制作にも従事された。さらに県内小中高等学校や各ホールでの鹿児島の偉人物語の上演や、演劇部ワークショップを実施され、鑑賞だけでなく、演者として表現する喜びや鹿児島弁を使う楽しさを伝える後進の指導もしておられる。維新ふるさと館「維新演劇シアター」の演出や2024年「宝暦治水」の演出（山下小）を手掛けられており、今後のご活躍が大いに期待される。



学術／音楽・医療

やました かおる
山下 薫さん

鹿児島市ご出身。鹿児島県立鶴丸高等学校ご卒業後、鹿児島大学歯学部へ進学され、2019年同大学院医歯学総合研究科博士課程において博士号を取得し、早期修了された。同大学院歯科麻酔全身管理学分野助教を経て2023年より講師に就任され、2024年に研究准教授の称号を付与された。超高齢社会において基礎疾患を持つ患者が増加し、歯科治療中に自律神経活動の変動から全身の偶発症を発症するリスクが高まっている。こうした中、安全な歯科治療環境の確立を目指し、「歯科治療中の音楽聴取が自律神経活動に与える影響」をテーマとして、研究に組み込まれた。その結果、「歯科治療中の自律神経活動の評価・解析モデル」を確立され、音楽聴取が自律神経活動の安定化や不安の軽減に有用であることを見出された。こうして得られた知見を、臨床現場にフィードバックされ、音楽を用いた治療を展開されている。また全身麻酔下で歯科治療を受ける子供たちの不安軽減のために、歌を題材にした手作り絵本を開発作成された。鹿児島県において、音楽を医療現場に活かし、安全で怖くない歯科治療環境の構築を目指され、その研究成果を国内外に発信されており、今後のご活躍が大いに期待される。

